

ミナミアオカメムシの加害によるゴマの被害と防除対策

利用対象：県内のゴマ生産者

- 県内のゴマ栽培圃場では、**ミナミアオカメムシ**が発生し、**多発圃場では青立ち株**が認められています
- 本研究において、**ミナミアオカメムシの加害がゴマの収量および油脂の成分品質に及ぼす影響**と、**栽培圃場における発生消長**が明らかになりました
- また、ゴマではカメムシ類の防除手段がないため、**農薬の登録拡大**を行いました



ミナミアオカメムシの加害がゴマの収量および油脂の成分品質に及ぼす影響

放虫時期	精子実（2mm篩上）の収量			油脂の品質	
	1蒴あたり重量 (DW mg)	粒数 (個/蒴) ①	1粒あたり重量 (DW mg)	油脂含有率 (%)	酸価 ②
登熟初期 開花10～20日後	20.8 ± 10.6 c	8.2 ± 4.4 c	2.56 ± 0.21 a	—	—
登熟中期 開花26～36日後	88.5 ± 27.2 b	35.5 ± 11.0 b	2.48 ± 0.24 a	47.3 ± 0.1 a	3.3 ± 0.1 c
登熟後期 開花40～50日後	126.7 ± 22.1 a	49.2 ± 7.9 a	2.57 ± 0.13 a	47.8 ± 0.1 a	1.4 ± 0.04 b
対照 放虫なし	140.7 ± 15.4 a	55.0 ± 4.9 a	2.55 ± 0.08 a	47.5 ± 0.2 a	0.8 ± 0.04 a

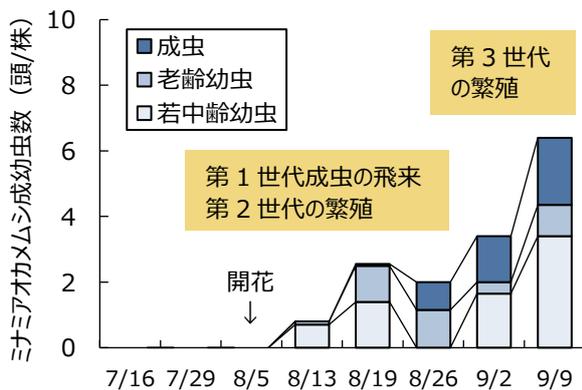
2019年調査。品種「真瀬金」。開花後の時期ごとに幼虫5頭/株を放虫。

平均値±標準偏差。Tukey'sHSD検定により、同一英小文字間に5%水準で有意差なし。



- ミナミアオカメムシが登熟初中期に加害すると、未熟な子実が発生します（左写真）。この時期に多発した場合は**収量が低下する可能性があります①**
- 加害されたゴマの油脂含有率に差はありませんが、油脂の酸価が高くなります。このことは油脂中の遊離脂肪酸の割合が増加して、**品質が低下する②**ことを示しています

ゴマ圃場におけるミナミアオカメムシの発生消長



(2019年、亀山市の無防除栽培圃場における調査
6/18 播種、品種「にしきまる」)

- 6月播種のゴマ圃場では、開花期に第1世代成虫が飛来し、登熟初中期には第2世代が繁殖します
- 登熟後期には、第3世代が繁殖します **この時期に発生量が最も多くなります**
- **ペルメトリン乳剤**（商品名アディオン乳剤）は、2021年7月7日付で、「ごま・カメムシ類」に対して登録拡大されました
- 周辺のムギ類、イネの収穫に伴って侵入するおそれがあるため、発生を確認したら防除しましょう

お問い合わせ先	基盤技術研究室 農産物安全安心研究課 中央農業改良普及センター	田中千晴 電話 0598-42-6360 田畑茂樹 電話 0598-42-6323
参考になる資料	田中ら（2021）関西病害虫研究会報63：47-51	